

教授 高橋 綾子

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例		<p>学芸員資格取得希望者が受講する授業「博物館概論」「博物館情報・メディア論」「博物館経営論」では、パワーポイントを用いた授業スタイルで、要点を明示し、実例の画像や映像も適宜示している。</p> <p>演習事業ではグループワークでの討議や、発表形式を取り入れている。</p> <p>美術文化クラスでの演習授業では、実際に展覧会を実施し、印刷媒体の制作を導入している。</p>

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
◎著書				<p>2002年に創刊した芸術批評誌『REAR（リア）』において企画編集、執筆、制作を継続的に行っている。現代における芸術に対して、批評・ドキュメントを介して多様な視座を生み出すことを目的とした雑誌を有志で創刊、以来すべての編集企画作業を遂行している。</p>
芸術批評誌『REAR』37号	共著	2016. 6. 25	リア制作室	<p>37号の特集は「詩歌句のしかく」</p> <p>「コトバという函をめぐって 対談：野口あや子×天野天街」はじめとした全編編集</p>
芸術批評誌『REAR』38号	共著	2016. 11. 20	リア制作室	<p>38号の特集は「障害と創造—当事者として向きあうために—」</p> <p>「障害と創造をめぐって 対談：立岩真也×広瀬浩二郎」のまとめ等全編編集</p>
◎批評誌記名執筆 インタビュー&レポート ポパイとたけしを訪ねて— 認定NPO法人ポパイ（名古屋）と認定NPO法人クリエイティブサポートレッツ（浜松）の挑戦—	単著	2016. 11. 20	リア制作室 芸術批評誌『REAR』38号	<p>中部圏の特色ある障害者福祉施設（NPO法人）を取材してその意義を考察した記事を執筆。</p>
◎寄稿記事執筆 「闇に触れる—岡部昌生ノヒカリー」	単著	2016. 5	せりか書房	<p>岡部昌生の伊江島のフロタージュ作品を核とした作家論を執筆。 (入稿はしたが、出版が延期)</p>

「人間と物質のあいだ」の向こう側」	単著	2016. 7	名古屋画廊	名古屋画廊での庄司達（造形作家）の新作個展に寄せて、案内DMに小文を寄稿。
「残波岬へ一時の襲を見渡してー」	単著	2016. 8	七ツ寺共同スタジオ あいちトリエンナーレ2016特別連携事業「往還Ⅱー原初の岬からー」広報誌二	沖縄の作家、崎山多美さんの「ホタラ余滴」の朗読劇に際しての広報誌への寄稿。沖縄戦を描いた丸木位里・俊夫妻の三部作「チビチリガマ」「シムクガマ」そして「残波大獅子」に触れて、当事者と非当事者（旅人）の意識に言及。
◎コラム執筆 「伊江島「ヌチドゥタカラの家」」	単著	2016. 4. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 406（5月号）	伊江島の戦跡を廻る旅をレポート。特に「沖縄のガンジー」と呼ばれた阿波根昌鴻と反戦平和資料館「ヌチドゥタカラの家」について紹介。
「没後40年 高島野十郎 光と闇、魂の軌跡」		2016. 5. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 407（6月号）	福岡県立美術館で開催中の高島野十郎の回顧展を紹介。圧巻だった暗い壁面に並ぶ「月」と「蠟燭」のシリーズに、「寫実の極致」が得心できる展観だと言及。
「良寛さん」		2016. 6. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 408（7月号）	新潟の出雲崎にある「良寛記念館」を紹介、安田鞆彦が贈ったという作者不詳の小さな乾漆像に触れた。
「無視覚流鑑賞の極意」		2016. 7. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 409（8月号）	兵庫県立美術館による「美術の中のかたちー手で見える造形」展を紹介。全盲の文化人類学者・広瀬浩二郎さんのプロデュースで「つなが×つつむ×つかむ：無視覚流鑑賞の極意」と題された企画の意義を記述。
「夏焼トンネル」		2016. 8. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 410（9月号）	「あいちトリエンナーレ2016」参加の岡部昌生さんの新作制作のレポート。天竜川沿いの愛知県豊根村と静岡県水窪町の境界に位置する「夏焼（なつやけ）第二隧道」でのプロタージュを紹介。
「トヨタ鞍ヶ池記念館」		2016. 9. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 411（10月号）	トヨタ鞍ヶ池記念館を紹介、「紡織機から自動車へ」と向けられた情熱と先見性を示す創業展示室の見応えに、「ラジオラマ」と呼ばれる1/30縮尺の模型に触れた。
「エコミュージアムおさしまセンター BIKKYアトリエ3モア」		2016. 10. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 412（11月号）	北海道音威子府の砂澤ビッキの旧アトリエを再生した「エコミュージアムおさしまセンター」を紹介。ビッキの墓でもある木についても言及。
「THE PLAY since 1967 まだ見ぬ流れの彼方へ」		2016. 11. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 413（12月号）	国立国際美術館でのTHE PLAY初の回顧展を紹介。《La Seine 現代美術の流れ》を目撃する縁を得たことや、記録の位置づけにも言及。
「遅咲きレボリューション！」		2017. 12. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 414（1月号）	広島県福山市にあるアーツスペース「クシノテラス」での企画展を紹介。糸井貫二さんことダダカンによる貴重な日記や、秘儀の映像に触れた。

「追悼特別展 高倉健」	2017. 1. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 415（2月号）	東京ステーションギャラリーでの「追悼特別展 高倉健」を紹介。映画俳優の展覧会における映像展示について言及。
「室伏鴻アーカイブカフェ “Shy”」		ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 416（3月号）	舞踏家・室伏鴻の資料を公開している早稲田にあるアーカイブカフェ “Shy” を紹介。その尽力とアーカイブの意義に言及。
「パロディ、二重の声 —日本の一九七〇年代前後 左右—」	2017. 3. 11	ナゴヤシネアスト 名古屋シネマテーク通信 no. 417（4月号）	東京ステーションギャラリーでの70年代のパロディ展を紹介。名古屋の「ぶろだくしょん 我S」と、伊丹十三が制作出演した画期的なテレビ番組に触れた。
◎インタビュー記事 あいちトリエンナーレの独自性	2016. 10 (8. 17取材)	同人誌『C&D』 特集	あいちトリエンナーレ開催前に、その見どころや中部の芸術における期待等の質問をうけて、インタビュー記事として掲載。
◎シンポジウム発表 シンポジウム「言葉の記録 日本現代美術のオーラル・ ヒストリー—80年代後半から 90年代前半の名古屋の アートシーンをめぐって—」	2016. 8. 21	あいちトリエンナーレ 名古屋市美術館講堂	東京大学の加治屋健司さん、造形作家の庄司達さん、愛知県美術館館長の鳥敦彦さんとのシンポジウム。進行役を担いつつ、庄司さんの関連年表を作成して配布した。
◎レクチャー 特別講演会「庄司 達 空間 と造形」	2016. 9. 4	アート倶楽部 カルチュ・ ラタン	名古屋画廊で開催中の「庄司 達」展に関連して、その空間と造形の軌跡を70年代から現在にいたるまでを解説。
◎社会活動：委員	2002～ 2008～ 2011～ 2013～2016 2014～ 2015～ 2016～	名古屋市土木部堀川整備調整委員 かすがい文化振興財団評議委員／豊田市美術館運営協議会委員 岐阜市屋外広告物審議会委員 春日井市文芸館ギャラリー利用調整会議委員 岐阜県現代陶芸美術館プロポーザル審査会委員 岐阜県美術館プロポーザル審査会委員／新岐阜県美術展（AAIC）企画委員／（仮称）津市久居ホール設計業務及び管理運営計画策定業務プロポーザル方式審査委員 名古屋市美術館運営協議会委員／豊田市教育行政会議委員	